

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【福島県】

| | |
|---------------|--|
| 1 実践テーマ | 【 IV 】 |
| 2 実施対象者 | 福島県立あさか開成高等学校（高校1学年～3学年）595名 |
| 3 展開の形式 | <p>（1）学校における活動</p> <p>① 教科名（総合的な学習の時間）</p> <p>② 行事名（芸術鑑賞会）</p> <p>③ その他（部活動）</p> <p>（2）地域における活動</p> <p>① イベント名（ ）</p> <p>② その他（ ）</p> |
| 4 目標 （ねらい） | <p>●多様な文化や価値観を認め合える社会について考えていく。</p> <p>●留学生と共に活動することで、友好を深めお互いの理解を深めていく。</p> <p>●福島や日本文化のプレゼンテーションをとおして、地域や自分の文化への再確認をし、プライドを育む。</p> <p>●平和について考える機会とする。</p> |
| 5 取組内容 | <p>●国際理解活動</p> <p>①外貨・古切手収集活動などの募金活動</p> <p>②JICA海外線協力隊経験者による講座</p> <p>③JICAグローバルセミナーへの参加</p> <p>④台湾への修学旅行</p> <p>⑤オーストラリア研修</p> <p>⑥福島から世界へ（福島を世界へ発信している方々や福島で事業を行っている方々のお話）</p> <p>⑦大学模擬授業（宇宙開発・地球環境・英国文化・ヨーロッパ経済・国際医療について）</p> <p>⑧郡山市ホストタウン、オランダについての講座・料理体験</p> |



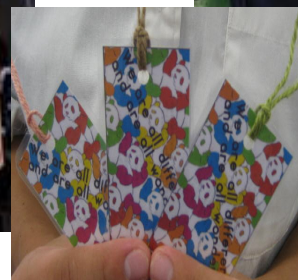
●留学生との交流活動

- ①留学生と東京五輪音頭を踊る
- ②留学生出身国の料理体験・語学教室
- ③ホストファミリーとして留学生の受け入れ
- ④留学生を交えたクラス対抗綱引き大会
- ⑤留学生とコンテスト出場
- ⑥留学生による日本語でのポスター作製



●互いの違いを認め合える社会を考える活動

- ①「LGBT」への理解を深める。
 - 1)「多様な性」についてのアクティビティ
 - 2) NPO法人ReBitさんによる講演会・体験談
 - 3) 返礼としての「レインボー・ミサンガ」作成
 - 4) 一日体験授業における中学生に対する「LGBT普及活動」
「レインボー葉」の作成と配布



②「障がい者スポーツ」を楽しむ

- 1) シットティングバレーボール体験
- 2) 「ボッチャ」についての講演会と体験
- 3) ユニバーサルデザイン講習会への参加
- 4) 特別支援学校の生徒との交流



③「レヌカの学び」をとおしてのアクティビティ
異文化への融合を体験する活動

●平和を願う活動

- ①日本に住む難民支援募金
- ②「Peace Orizuru」活動への参加
 - 1) JICA グローバルセミナーでの普及活動
 - 2) 福島南高等学校国際文化科への協力要請
 - 3) 全校生での折鶴作成⇒千羽鶴作成⇒展示⇒広島へ
- ③JRC 委員会による全校生への「平和メッセージ」
- ④芸術鑑賞教室「地雷探知犬 NEENA」鑑賞・地雷展示



●日本文化・福島プレゼンテーション

- ①オーストラリアでの福島・日本文化に関するプレゼンテーション
- ②世界水族館会議「ふくしま PR ブース」での郡山紹介
- ③留学生への茶道に関するプレゼンテーション



●その他の活動

- ①東京 2020 デイカウンターポスター作製
- ②「みんなのメダルプロジェクト」のためのスマホ回収
- ③東京オリンピック・パラリンピックに関するアクティビティ
- ④「環境フォーラム」でのSDG s 取り組みについての紹介
- ⑤スポーツボランティア研修への参加



| | |
|--------------------------|--|
| 6 主な成果 | <ul style="list-style-type: none"> ・教育活動の目的が明確にすることができた。 ・生徒の活動の場を増やすことができた。 ・オリンピック・パラリンピックの取り組みから SDG s への意識を向上させることができた。 ・推進事業をとおして、文化交流を行うことができた。 ・東京オリンピック・パラリンピックをとおして、日本の将来の姿について考えることができた。また、生徒たちの進路や生き方を含めた指導を行えた。 ・障がい者スポーツに対する興味・関心度が高まった。 ・ボランティアとして 2020 大会への参加を希望する生徒に対しての後押しになれる活動ができた。 |
| 7 実践において工夫した点 (事業の特色) | <ul style="list-style-type: none"> ・オリンピック・パラリンピック推進教育をとおして、将来の日本の姿を考えられるよう、現在話題になっているような題材を取り上げ、小論文指導やエッセイコンテスト等との連携を行い自分の考えを発信させる指導を行った。 ・LGBT や障がい者スポーツを別なものとしてとらえるのではなく、自分の性を考える機会にしたり、自分たちでもできるスポーツとして実体験させたりすることで、楽しさや大変な部分を経験として感じさせた。 ・気軽に参加できる行事を設定した。 |
| 8 主な課題等 | <p>(校外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①事業の開始時期が春からであれば、より深い実践活動になるのではと思う。 ②教育推進校同士の連携や情報交換ができる場がなかった。 ③学校と講演会講師とのやり取りに苦労した。 ④講師料が各校で違い、基準があいまいだった。 ⑤マークの使用に対する基準が厳しく事務処理など使いにくさもあり、使用の際に躊躇してしまい、思うように利用できなかった。 <p>(校内)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学校全体の取り組みにさせるためには、他教員への理解や協力が必要である。 ②学校の特色上、全校生に対する取り組みを行う必要があるため、どのように興味関心を抱かせればよいのか、工夫する必要がある。また、オリパラへの関心をいかに継続させ高めていくかが今後の課題である。 |
| 9 来年度以降の実施予定 | <ul style="list-style-type: none"> ①「総合的な学習の時間」の中で SDG s に関する内容の学習 ②平和について考える活動 ③留学生との交流と異文化理解 ④日本文化への再認識 ⑤海外研修での福島プレゼンテーション ⑥ボランティア活動 ⑦障がい者スポーツの普及活動 ⑧オリンピックアスリートとの交流 |